

11・5津波防災の日 災害から命を守るためには



皆さんは「津波防災の日」をご存知でしょうか。東日本大震災を契機に「津波から命を守る日」として定められました。分会ではこの日に防災士を中心として横須賀線の鎌倉・逗子駅を現地踏査しました。鎌倉の津波対策はメディアでも紹介され、関心が高まっています。「もし、乗務中に地震が発生し、津波が想定されたら？」皆さんは、どう行動しますか。

避難先 源氏山公園への道



乗務中では、走行中や停車した場所が地形上どのような場所なのかをイメージしにくいかと思います。タブレットには津波避難アプリが入っていますが、避難先によっては写真のような場所を通るルートを紹介しています。

鎌倉駅や逗子駅では駅設置の津波避難マップの掲出が大幅に縮小されました。鎌倉駅の防災マニュアルでは津波避難指定箇所の「御成中学校」が「御成小学校」の場所になっていたり、逗子駅で指定している「聖和学園第二グラウンド」は草がぼうぼうで、整備されているのかも不明な状態でした。会社は現実を見て防災対策やマニュアル整備をしているのか疑問です。

近いうちに必ず発生すると言われている大地震。被災は、若手もベテランも関係なく、「命を守る行動」を直ちにとることが求められますが、普段やっていないことはいざというときにもできません。

ジョブローテーションにより東京車掌区で東日本大震災を経験した方や、線区の知識・経験が豊富な先輩方が多く転勤となりました。防災に関する技術継承が急務な課題です。分会では今後も、災害から自らとお客さまの命を守るため、防災士を中心に現地踏査行動に取り組んでいきます。みんなの力で、災害から命を守る鉄道をつくっていきましょう！